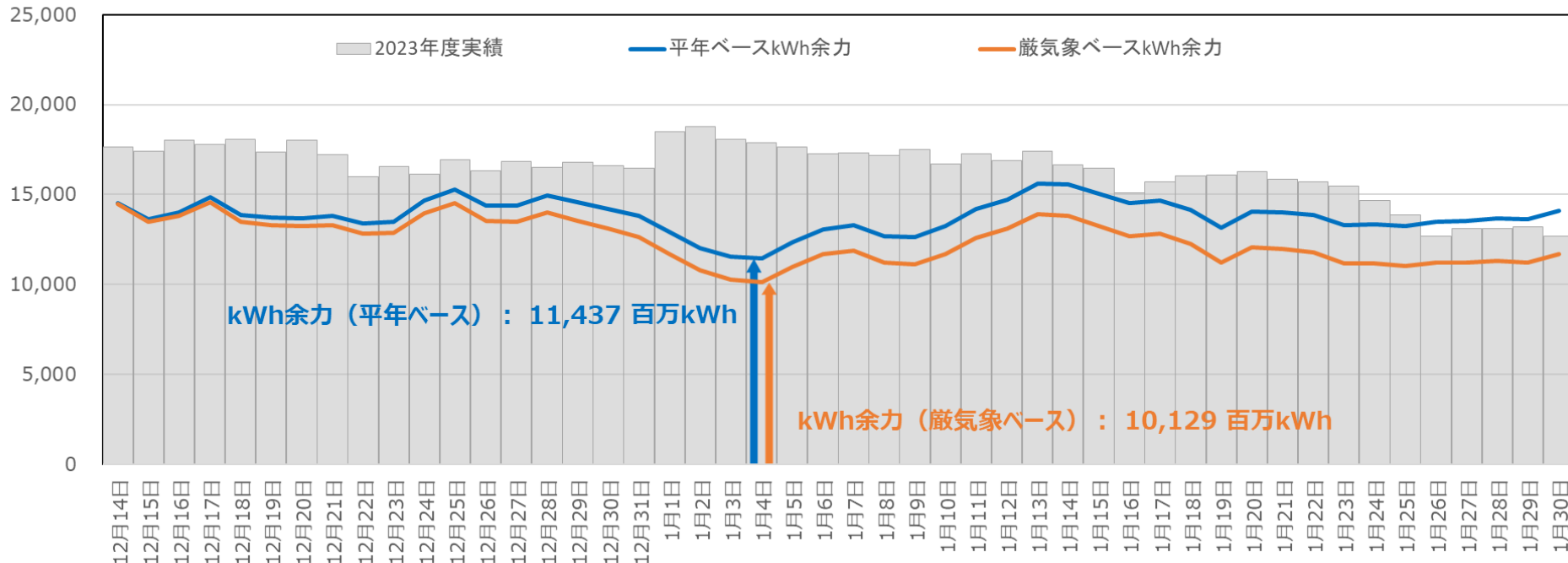


kWhモニタリング（対象期間:12/14~1/30）の結果

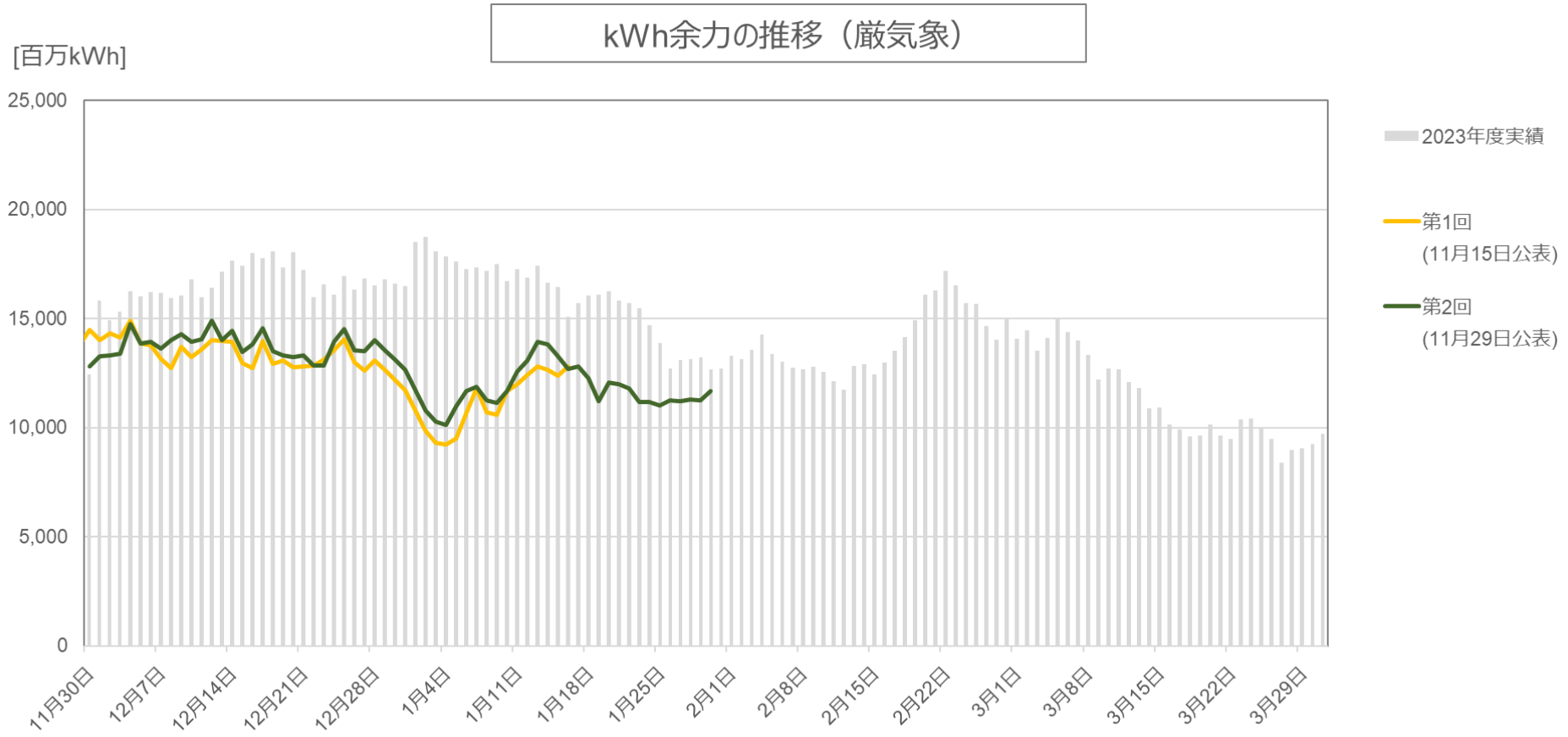
- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は1月4日に最小となる見込み。その値は**11,437百万kWh**であり、これは、対象期間の平均電力消費量の**約5日分**に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移すると、kWh余力は、1月4日に**10,129百万kWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の**約4日分**に相当。
- 昨年度と比べ、今冬1月中旬まではやや少なめの燃料在庫が見込まれる。今年度は同期間、原発や石炭といったベース電源の稼働が昨年度より多く、LNG火力の発電量は減少する見込み。そのため、同期間の燃料在庫が低めに推移するのは効率的な燃料調達の結果によると推察。本推察も踏まえ、今後も継続して燃料在庫の動向に注視していく。

[百万kWh]



kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

■ 前回（第1回）のkWh余力（厳気象ベース）と、概ね同じ傾向で推移。



注：上記kWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、厳気象を想定した推移ではない(4スライド参照)